

第 48 号 平成 5 年 6 月 29 日

発行者 群馬県山岳連盟  
〒371 前橋市大手町1丁目1-1  
群馬県庁観光課内  
TEL (0272)23-1111  
編集 群馬岳連編集委員会  
責任者 羽野 順一  
印刷所 田 印 刷  
<定価 1部 100円>

題字 〔浜名一雄〕

# 山にのぼる



理事

阿部 源

## 丹沢ポッカ駅伝

六月六日、丹沢でポッカ駅伝が行われる。私も仲間と五人で、「群馬カッカセ」というチームを作り参加する。女子も、「カッカセレディス」で優勝を狙う。ポッカ駅伝とは、丹沢の大倉尾根を、大倉バス停から鍋割山荘まで、八九六メートルを五区間に分け、一人四十キロの小石を背負い、駆け登る競争である。

その他、二十キロ、十キロのクラスがあり、今年は、百八チームが参加する。四十キロの部はチームである。

そのコースを、昨年の優勝チームは、二十キロで一時間二十九分四十キロで、二時間十七分で登った。

ちなみに、ガイドブックでコースタイムを見ると、三時間十分位かかる。

四十キロの荷は、最近では、冬山でもまず背負うことは無い。本気でトレーニングをしていないと立ち上がる事もできない重さである。

それを背負って走るのである。まともな神経の人なら、聞いただけで気持ちが悪くなるにちがいない。今年、我々のカッカセチームに、昨年山田杯で優勝した、山田豊さんが入る。

山田さんはすごい。徹底したトレーニングを重ね、その走力、精神力、底知れぬスタミナは、驚くばかりである。

また、四十キロを背負って走るという未知の世界に、あえて挑戦しようという、年を感じさせない心意気がすごい。

我々山々は、普段あまりトレーニングをしない。しているも、それが、合理的、科学的であるかという、なんとも自信が無い。

山田さんに言わせると、ヘドが出るくらいトレーニングしないとだめなのだろう。

普段、鍛えてないから、山に行くとバテる。

我がカッカセチームは、ランナーの山田さんと、山岳を代表する

る、松本、大山、赤松、阿部の四人である。

四人とも、走る事では山田さんに勝てないけれど、四十キロを背負って山道を登る事なら、けしんどうなるか、結果が楽しみである。

山田さんには勝負どころの一区をやってもらう。私は一番短くて楽な三区を走る。

こりや、もう負けているか。

日光白根山

集会の後、飲みに行った店で、友人が話していた事である。

その友人は、三月におばさん三人を日光白根に連れていった。

おばさんたち、どうしたわけか雪の日光白根に登りたくなった。

夏の間、近くの山に登り体力作りにはげんだ。ヤッケとスパッツとアラブーツを新調し、ビッケルとアイゼンは借り物という、どこからみても素人の登山家が出来上がった。

しかし、おばさんパワーはすごい。五色小屋からの急登にヒイヒイ言いながらも、頂上に立ったのである。

「そしたらよ、おばさんたち手を取り合って泣いてやんの。涙ポロポロ流して、よかったって。」

友人の話を酒の肴に、私達は笑ってしまった。

「日光白根に登った位で、涙まで流して、おばさんらしいや。」

だがまてよ、笑っていいものだろうか。

最近、山に登り、涙する事が有っただろうか。新鮮な感動に、思わず身震いするような経験をしたのだろうか。

私は、初めて山に登った時のあの気持ちを大切にしたい。

帰りにおばさん達、急な下りで怖くなり、また涙を流したそうである。

白馬主稜

身内の事で恐縮だが、最近のうちのかみさんの山の頑張りはずい。

第二回山田杯で、偶然とまぐれが重なって、女性で二位になったことで、すっかり自信を持ってしまった。

中年のおばさんが自信を持ったら、恐いものなした。

昨年は関プロで一位になり、山形団体に出場した。夏から秋にかけての山形通い。おかげで、私は炊事、洗濯が上手になった。

五月の連休は、白馬主稜を新人の女の子と二人で登ってきた。私是不帰峰主稜が雨で登れず、そのまま帰ってきた。

団体が終って、やれやれと思っていたら、今年は強化コーチとかが、毎週のように榛名に行っている。先週も、榛名のクロカンに出場。午後は岩の練習をしてきた。

私は、子供たちと、華蔵寺公園でジェットコースターに乗ってきた。

最近、山に登るといことは、家族の理解と協力が必要だと良くなった。山に夢中の時は、自分一人の力で登っていると思ってしまう。私たちは、謙虚になるべきである。

この前も、

「おとうさんが、三回もヒマラヤに行ったのに比べたら私の団体なんか、まだまだよね」とか言っていた。

何かに夢中になれるということ、は、素晴らしい事だと思つ。これからも、充実した山に登ってもらいたい。

私も、家庭と山を両立させ、素晴らしい山に登り続けたいと思つ。

山にのぼる

「山にのぼる、次の日曜、昔みたい雨が。」これは、NHK朝の連続ドラマ、ひらりのテーマ曲「晴れたらいいね」の一節である。歌っているのは、ドリカム・カム・トルーという若者に人気グループである。

そのドリカムが「山に登る」と歌っているのである。

いよいよ、登山も若者に人気が出てきたのかと思つと、嬉しくなってしまう。

いつ頃からか、登山という、きつい、汚い、危険の三Kスポーツと思われる。おまけに、暗い、金がかかる。彼女ができない、の三Kとも言われ、若者に敬遠されてしまった。

山では風呂に入らないんですか。トイレはどうするんですか。

駅で寝るなんて、ホームレスみたいじゃないですか。

毎日朝シャンをする若者に、谷川の水で顔を洗う気持ちの良さなど話してもわかるはずがない。

かくして、山から若者の姿が消え、おどろくほど元気な、おじさん、おばさんに占領されてしまったのである。

しかし、最近少しずつではあるが、山に興味を持ち、登りたいという若者が増えてきたように思つ。私の会でも新人が増え、活気が出てきた。

彼らの考え方は、私達とずいぶんちがいが、ついていけないものがある。私達が新人の頃は、もっとまともだったと、つい思ってしまう。

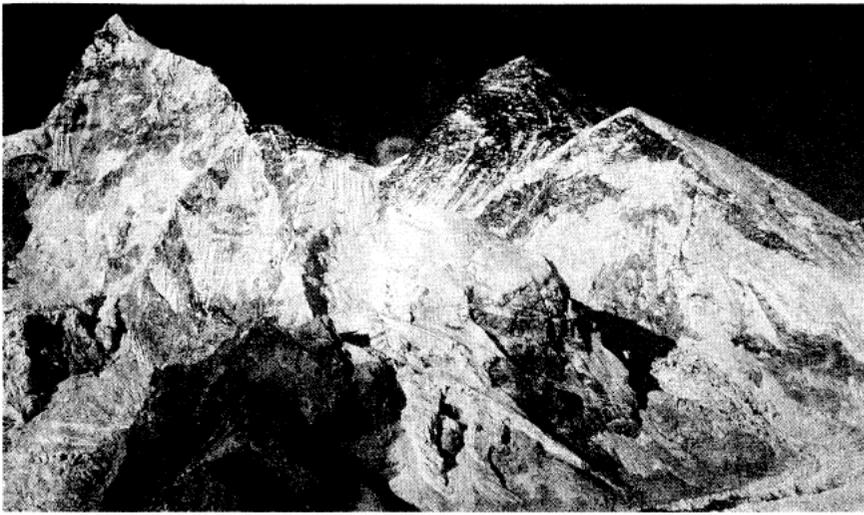
しかし、彼らの山が好きで、山に登りたいと思う気持は大切にしたい。私達も、先輩達に育ててもらった事を忘れず、一緒に楽しい山のぼりをしていきたい。

嶺邑のいわれ

嶺邑とは、万葉集の中に出てくる言葉で、嶺は山々、峰々の意。邑は親愛感動を表す接尾語。

# 再度冬期サガルマータ 南西壁へ！

登攀隊長 名塚 秀二

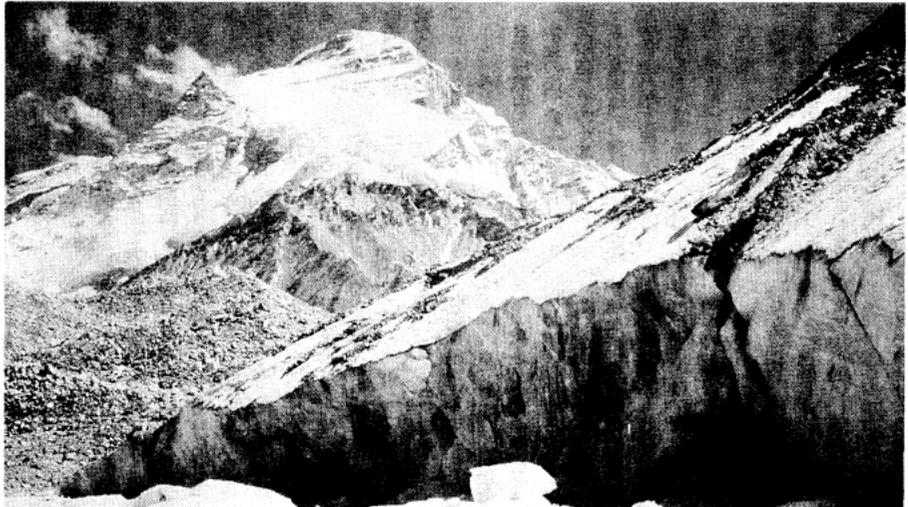


サガルマータ南西壁

九一年、九二年、群馬岳連の第五次ヒマラヤ登山として冬期サガルマータ南西壁に挑んだが、最終キャンプ(C<sup>5</sup>八、三五〇米)を最高到達点として登頂を果せず敗退して帰ってきました。

冬のサガルマータ南西壁に立ち向うに際して「寒気、落石、強風」の三つは、群馬岳連が行なった八四年、八五年、八七年の二回のアンナプルナー峰南壁で実際冬期の厳しさを体験していたので、寒気に対しては、テビロンの下着や羽毛のつなぎ、又、シュラフはノーマルシーズンのヒマラヤで使っている羽毛量より多めの物を用意し、反対に就寝時に羽毛つなぎを脱いで寝るといふ事にまでなり、極寒を想定して用意した衣類等で対処出来た。

落石は、考えていたよりも酷くはなく、大きくてもこぶし大位の大きさで、落ちてくる量も多くはなかった。但し、隊員一名が、登攀中一休みして動き出そうとした時、落石を左頬に受けたが、大事にはいたらなかった。落石は登攀中注意をすれば防げた。



中央 チョー・オユー

を発表した。この発表は、増加する外国登山隊と環境問題から何らかの規制をする必要があったもので、その構想は、入域者を減らす。秋に世界第六位の高峰チョー・

を公表した。この発表は、増加する外国登山隊と環境問題から何らかの規制をする必要があったもので、その構想は、入域者を減らす。秋に世界第六位の高峰チョー・

失敗の原因は何と言っても、私達隊員の「力不足」であったと思えますが、かと言って全手も足も出なかったという訳ではありません。十二月一日の登山開始以降僅か十六日間という短期間で南西壁の核心部であるロックバンドを突破して八、三〇〇米ラインに到達しており、南峰へのコルまでのルー

失敗の原因は何と言っても、私達隊員の「力不足」であったと思えますが、かと言って全手も足も出なかったという訳ではありません。十二月一日の登山開始以降僅か十六日間という短期間で南西壁の核心部であるロックバンドを突破して八、三〇〇米ラインに到達しており、南峰へのコルまでのルー

隊員七名の枠は、ルート工作が出来た人間を最優先に選考した。そして前回の反省から、十二月下旬になると、冬のジェットストリームが吹き出し、一度吹き出すと数日間続き、たとえ止まったとしても長続きせず、停滞日が多くなってしまう、ルート工作、ルート確保が出来なくなってしまうという悪循環を繰り返してしまつたので、十二月中旬までに頂上を陥してしまわなければならない。必然的にスピーディーな登山が要求され、そのスピーディーな登山を実践する為に、装備・酸素ボンベのさらなる軽量化を図り、酸素ボン

隊員七名の枠は、ルート工作が出来た人間を最優先に選考した。そして前回の反省から、十二月下旬になると、冬のジェットストリームが吹き出し、一度吹き出すと数日間続き、たとえ止まったとしても長続きせず、停滞日が多くなってしまう、ルート工作、ルート確保が出来なくなってしまうという悪循環を繰り返してしまつたので、十二月中旬までに頂上を陥してしまわなければならない。必然的にスピーディーな登山が要求され、そのスピーディーな登山を実践する為に、装備・酸素ボンベのさらなる軽量化を図り、酸素ボン

### 隊員(サガルマータ)

総隊長 星野 光

隊長(渉外) 八木原園明

副隊長(戦略) 尾形 好雄

登攀隊長(食糧) 名塚 秀二

隊員(輸送、梱包) 今村 裕隆

隊員(食糧) 田辺 治

隊員(装備) 江塚 進介

隊員( ) 佐藤 光由

隊員(輸送、梱包) 後藤 文明

### 隊員(チョー・オユー)

総隊長 星野 光

隊長(渉外) 八木原園明

副隊長 宮崎 勉

隊員(戦略) 尾形 好雄

登攀隊長(食糧) 名塚 秀二

隊員(会計) 吉田 文江

隊員(食糧) 田辺 治

隊員(装備) 江塚 進介

隊員( ) 佐藤 光由

隊員(輸送、梱包) 後藤 文明

隊員(記録) 寺田 勉

隊員(装備) 星野 龍史

隊員( ) 秋山 剛

# 平成五年度 定期総会報告

日時 六月十三日(日)十四時三十分  
 会場 群馬県民会館第六・七会議室  
 出席 星野(沼田) 石井(伊勢崎) 竹淵(中曾根事務所) 田中(登高会) 太田(独峰) 八木原(ミヤマ) 樋口(桐生) 高田(登高会) 女屋(ミヤマ) 羽野(境) 中島(中高校) 加藤(富

土) 松田(前橋) 笠原(前橋) 茂木(独峰) 佐藤(ミヤマ) 大澤(高体連) 岡安(高体連) 水野(沼田) 新井(高崎) 須田(むすび) び) 大山(境) 富山(太田) 松永(沼田) 西山(沼田) 阿部(大間々) 名塚(前橋) 千明(ミヤマ) 町田(太田) 長谷川(中之条) 北村(沖電) 工藤



総会での星野会長あいさつ

当日は恒例により、総会開催に先立ち六月の理事会を開き、引きつづいて総会に入る。田中理事長の開会あいさつでは、中曾根弘文顧問が忙忙で出席出来ないで秘書の竹淵氏に代理であいさつしていただき、次いで星野会長から総会に臨んでのあいさつがあり、つづいて女屋事務局長から今総会が成立したとの報告があり、星野会長の議長で議案審議に入る。第一号議案の平成四年度事業報告から女屋事務局長より説明がある。主な内容は各部に別けて平成四年度の活動と事業報告がなされ、特に第三回の山田杯登山競走、県民登山大会、全国山岳遭難対策協議会が水上町で開催。指導部での各種講習会の開催。第四十七回団体(山形県)へ成年男子、成年女子、少年男子が参加。平成四年度日山協自然保護委員会総会が十月十七日(土)、十八日(日)に群馬岳連の主管で水上町去来荘で開催した。事業部で毎年作成しているカレンダーの編集販売、岳連機関紙「嶺邑」四十五、四十六、四十七号の発行等が報告され、満場一致で承認された。同時に第二号議案の

(富士) 寺田(太田) 森田(桐生) 大島(高崎) 赤松(太田) 田島(伊勢崎) 木暮(むすび) 江塚(伊勢崎) 神戸(ミヤマ) 以上四十名(順不同)

平成五年度群馬県山岳連定期総会が六月十三日(日)県民会館第六・七会議室に於いて開催されました。当日は恒例により、総会開催に先立ち六月の理事会を開き、引きつづいて総会に入る。田中理事長の開会あいさつでは、中曾根弘文顧問が忙忙で出席出来ないで秘書の竹淵氏に代理であいさつしていただき、次いで星野会長から総会に臨んでのあいさつがあり、つづいて女屋事務局長から今総会が成立したとの報告があり、星野会長の議長で議案審議に入る。第一号議案の平成四年度事業報告から女屋事務局長より説明がある。主な内容は各部に別けて平成四年度の活動と事業報告がなされ、特に第三回の山田杯登山競走、県民登山大会、全国山岳遭難対策協議会が水上町で開催。指導部での各種講習会の開催。第四十七回団体(山形県)へ成年男子、成年女子、少年男子が参加。平成四年度日山協自然保護委員会総会が十月十七日(土)、十八日(日)に群馬岳連の主管で水上町去来荘で開催した。事業部で毎年作成しているカレンダーの編集販売、岳連機関紙「嶺邑」四十五、四十六、四十七号の発行等が報告され、満場一致で承認された。同時に第二号議案の

平成四年度収支決算報告が富山理事(会計担当総務)より報告され、これも満場一致で承認される。次に北村監事より、会計監査報告が行われる。第三号議案の平成五年度事業計画案が女屋事務局長より発表される。主な内容としては四年度と同様に各部の年間事業の他、今年度は県岳連の総力を結集した海外登山の第六次岳連ヒマラヤ登山として「チョ・オユ」及び冬期サガルマータク南西登山を実施する。次の嶺邑四十九号で八木原隊長より細部にわたる計画が報告される予定。その他では七月に今年度は国体の関東ブロック大会が群馬の主管で榛名山系で開催予定、文部省中高校安全登山指導者講習会を群馬との共催で谷川岳・水上町去来荘で実施される。また、日山協海外遭難対策研究会及び国際委員会総会の主管を群馬岳連で、これも水上町去来荘で開催予定。それ以外でも毎年恒例行事となっている山田杯登山競走、県民登山大会等が計画され、各部の事業を含め盛沢山の計画案もすべて承認された。以上の年間計画案もすべて承認された。最後に第四号議案の平成五年度予算案が富山会計担当総務より発表され、これも承認されて予定されていた議案すべてが無事に終了。総会を終了する。総会終了後毎年行われている参加希望者による懇親会が県民会館内「スワン」で開かれ、岳連会員相互の親睦を重ねた。

## 平成4年度 収支決算書

(収入の部) 単位:円

科目	予算額	補正	収入済額	付記
会費	597,000	△52,206	544,794	会費 13,000×31=402,794 登録料 200×385=77,000 参与会費 5,000×13=65,000
未収金	117,000	△78,000	39,000	13,000×3=39,000
交付金補助金	1,541,000	231,720	1,772,720	群馬県補助金 400,000 県体協補助金 27,000 国体強化費等 1,345,720
繰入金	500,000	30,000	530,000	カレンダー収入(4年度)
寄付金	5,000	△5,000	0	
繰越金	451,636	0	451,636	
雑収入	40,364	44,506	84,870	保険還付金 32,490 ヒマラヤ写真展 50,881 利息 1,499
合計	3,252,000	171,020	3,423,020	

(特別会計)  
 1. 遭難防止対策基金(定期預金) 918,701円  
 2. 積立金(普通預金) 349,234円  
 (国体強化費等)  
 1. 選手強化費補助金 934,000円  
 2. 県子選会補助金 45,000円  
 3. 関東地区大会派遣費補助金 287,520円  
 4. スポーツ傷害保険料補助金 79,200円  
 計 1,345,720円

(支出の部) 単位:円

科目	予算額	補正	支出済額	付記
事業費	2,304,000	△112,385	2,191,615	編集 159,000 遭難 178,200 指導 50,000 海外 60,000 国体 35,000 国体強化等 1,345,720 山田昇記念杯 250,000 その他 113,695
会議費	100,000	△66,730	33,270	会場使用料(総会、理事会等)
事務費	500,000	△49,294	450,751	郵送料 215,399 封筒・用紙等 89,352 コピー消耗品 57,895 メンテナンス 44,290 その他事務費 43,815
旅費	60,000	20,340	80,340	日山協理事会、ワールドカップ等
負担金	174,000	3,000	177,000	日山協 152,000 県体協 20,000 関東岳連 5,000
子備費	114,000	△64,290	49,710	慶弔費 20,450 プロ野球券 20,000 その他 9,260
合計	3,252,000	△269,314	2,982,686	

差引 3,423,020円 - 2,982,686円 = 440,334円 —平成5年度へ繰越

技術と信用で地域社会に貢献する  
 総合建設業  
**万屋建設株式会社**  
 取締役会長 星野 光  
 本社 群馬県沼田市下之町880番地 TEL 0278(23)4648(代表)  
 支店 東京都豊島区東池袋4-2-7 TEL 03-985-7631

# 平成5年度 群馬県山岳連盟行事一覧表

月	総務部・自然保護部	編集部	遭難対策部	登山指導部	海外登山部	国体部	事業部	その他
4	14 理事会 22 県体協理事長会議 23 県体協評議員会			9 2種指導員検定(前橋)		4 日山協国体委員会 10 関東地区大会実行委員会 17-18 県民体育大会2部 山岳競技会(榛名山系) 24-25 関東地区大会審判員会議(榛名山)		
5	12 理事会 21 県体協評議員会		23 隊員訓練	9 雪上技術講習会(谷川岳) 9 2種指導員検定(谷川岳) 16 " (榛名山) 25 指導員総会(前橋) 30 岩登り講習会(榛名山黒岩)	18 委員総会			15-17 県高校総体(榛名山系)
6	5 尾瀬ゴミ持ち帰り運動 13 理事会・総会(前橋)	嶺呂48号発行		9 天気図講習会(前橋) 19-20 日山協指導委員総会(東京)	25-26 日山協海外委員会(群馬県・水上町)	19-20 国体関東地区大会 リハーサル(榛名山系)	平成6年 カレンダー 写真締切	
7	4 谷川岳安全登山の日 14 理事会		4 隊員訓練(谷川岳)	11 C級スポーツ指導員移行講習会(前橋・群馬大学)		23-25 関東地区大会(群馬県・榛名山系)		
8	11 理事会			28-29 指導員養成講習会(川場村武尊山)			印刷仕上がり1600部	1-5 全国高校総体(栃木県)
9	8 理事会 26 第4回山田昇記念杯登山競争大会(川場村武尊山)	嶺呂49号発行	5 隊員訓練	16-18 文部省中・高年安全登山指導者講習会(谷川岳)	第6次ヒマラヤ登山 9月~10月 チョ・オユー		9 各山岳会へ配布	
10	13 理事会 未定 第17回県民登山大会					24-28 第48回国体(徳島県剣山・祖谷山系)		
11	10 理事会			14 ロックフェスティバル(榛名山黒岩)				
12	8 理事会	嶺呂50号発行	14 冬山合宿検討会			12月サガルマータ南西壁		
1	12 理事会		18 冬山合宿報告会					
2	9 理事会			6 水壁技術講習会	19-20 日山協海外登山技術研究会			
3	9 理事会	嶺呂51号発行	6 隊員訓練	13 雪上生活技術講習会(谷川岳)				25-28 高体連リ ーダー講習会

## 講習会報告

### 「水壁技術講習会」

二月二十一日 足尾松木沢  
参加者 十五名  
講師 高田・堀越・阿部・原田  
今年度は暖冬で、氷の状態が悪く、当初は七日に予定していたが二十一日に変更した。救助隊の訓練や海登研のセミナーと重なってしまい迷惑をかけた。  
八時より、横向き沢口にて、初心者と経験者に分けて行う。主として、水壁でのランニングビレイの取り方を練習する。  
原田氏より、氷は傾斜が八十度、八十五度、九十度では登り方がちがってくる。急になると、体が動かなくなるので、それなりの登り方をしなければならぬとのアドバイスがあった。  
天候、氷の状態とも悪かったが参加者からは「初めての氷だったが楽しかった。これからは登ってみたい」との感想が聞かれた。

### 「雪上生活技術講習会」

三月七日 谷川岳天神尾根  
参加者 山スキー班 九名  
ワカン班 二十名  
講師 高田・名塚・佐藤・角田  
九時三十分、熊沢の頭に集合。文登研の研修に行ってきた角田氏(高体連)より、雪崩対策の報告が行われた。  
次いで、山スキー班は、谷川岳の頂上を目指した。  
残りは、二組に分かれ、雪上歩行、ラッセルの仕方、雪洞イグル

作りなど行った。  
天候にも恵まれ、女性の参加者が多かったので、のんびりとした楽しい一日だった。

### 「雪上技術講習会(指導員検定)」

五月九日 谷川岳ツチガ沢  
参加者 検定講習 二十六名  
一般講習 三名  
講師 阿部・名塚・佐藤・光田  
今回は、指導員検定を兼ねたため、参加者のほとんどが、指導員資格を得ようとする人達であった。八時より、参加者を五グループに分け、講師一人が担当、講習を始める。

## 平成5年度 救助隊員名簿

〇岳連常任理事及び遭難対策部  
西山年秋(沼田)  
松永幸雄( )  
新井邦光(高崎)  
加藤藤夫(富士重工)

### 〇隊員役員

総隊長 西山年秋  
隊長 新井邦光  
副隊長 茂木稔  
小委員 小暮文彦  
町田幸男  
清水裕千  
柳沢章

### 〇隊員

北毛 柳沢章(沼田)  
西毛 新井邦光(高崎)  
" 茂木稔(独峰)  
" 伊藤雅之( )  
" 後藤満( )  
" 小林利之(安中)  
" 清水裕千(むすび)  
" 木村正己(松井田)  
" 結城雅則(登高会)  
" 神戸誠(ミヤマ)  
" 小暮文彦(境町)  
" 大山洋次( )  
" 町田幸男(太田)  
" 矢内勝己(大間々)

### 〇連絡担当者

五月三十日 岩登り講習会  
六月九日 天気図講習会  
八月二十八日・二十九日 指導員講習会  
十一月十四日 ロックフェスティ

東毛 町田幸男  
中毛 小暮文彦  
西毛 茂木稔  
北毛 柳沢章  
" 清水裕千

美と健康のお手伝い

ブリジストン自転車  
ナショナル自転車  
ホンダのオートバイ  
サイクルショップ

# ヤギルラ

前橋市下細井町139-3  
TEL 0272-31-1308

有限会社 山とスキーの店 石井

# Dream BOX

伊勢崎市宮子町78街区1819-1  
TEL.0270-21-8025 FAX.0270-21-8026